

国の介護保険制度の見直しに 対する羽生市の対応について

小野 幸夫議員

・質問 次の点について伺いたい。

要介護度別の認定率について、羽生市は全国平均に比べて軽度者の割合が少ないが、要因は。

介護保険に予防給付の制度ができるようだが、羽生市の対応は。

地域密着型サービスの創設についてどのようなメニューを考えているか。

・答弁（市民福祉部長）

要介護認定者のうち軽度といわれる要支援、要介護1の認定率は全国平均四十七・七%、県平均四十四・四%、羽生市では三十七%となっている。

これは、第一号被保険者に占める要介護認定者の数、いわゆる認定出現率の違いがひとつの要因であると考えられる。

要支援、要介護1の方を対象とした新予防給付については、軽度者に対する介護保険サービスが利用者の状態改善につながっていないという現状から、創設されるものであり、既存サービスを介護予防の視点から見直すとともに、筋力向上トレーニング、転倒骨折予防、栄養改善、口腔ケア、閉じこもり予防等の新

たな導入が検討されている。

当市においても、地域の実情、特性等分析し、パワーリハビリテーションも含め、十八

年度以降に反映していきたい。地域密着型サービスについては、全国的に共通する従来型のサービスとは別に、地域の特性に応じた多様で柔軟なサービスを提供できるような体系を構築しようとするもので、例えば、身近な生活圏の中で、例えば、泊まり、訪問居住などを複合的に組み合わせ提供しているサービスであり、

既存サービスの機能拡大も含めて、多様な形態を検討することとしている。

今後、国の法整備を待ち、当市の実情や特性に応じた地域密着型サービスの導入の検討を進めていきたいと考えている。

その他の質問

・SPコードの早期の普及について

・発達障害児（者）に対する羽生市の対応について
・古い民家の保存について

人づくりは

国際感覚の育成から

丑久保 恒行議員

・質問 次の点について伺いたい。

国際社会に対応できる人材の育成についてどのように考えているか。

平成十五年度から凍結している中学生の海外派遣を実施すべきと考えるが、見解は。

羽生市の中学生の国際交流

についての基本的な考え方について

・答弁（教育長）

中学生の国際感覚を育成し、国際社会で活躍できる人材の育成は、教育の貴重な課題の一つである。

中学生が海外に行き、異なった歴史、文化、人に触れ

ることは貴重な体験であり、これからの国際社会に向けて大変意義のあることと考えている。

平成七年度から平成十四年



ベルギーディルビュイ市への中学生派遣（平成14年度まで実施）

度までの八年間、ベルギーのディルビュイ市に中学生の海外派遣を行ってきたが、厳しい財政事情に加え、ホームステイの受け入れ家庭の確保が困難になってきていること、限られた生徒しか派遣できないことなどにより、現段階では休止せざるを得ない状況であるが、今後十分協議していききたい。

次代を担う児童・生徒の国際感覚の育成を図るため、外国語指導助手（ALT）を配置している。

その他の質問

・公共施設に対するの受益者負担の導入を